

平成23年度岩崎城跡発掘調査概要

調査要項

遺跡名 岩崎城(いわさきじょう)跡 所在地 北上市和賀町岩崎 地内
 調査期間 平成23年8月～10月(予定) 調査目的 住宅建設用地試掘調査
 調査担当 北上市立埋蔵文化財センター

遺跡の位置

岩崎城跡は北上市和賀町岩崎 18・25 地割地内に位置し、夏油川に沿ってのびる比高約 30mの舌状台地上に立地する。台地上は3郭からなり、北側台地下に城内と呼ばれる一郭がある。台地上西側の郭外に組小路といわれる家臣団の屋敷跡があったが、現在は削平され、運動公園と小学校が所在する。

今回の調査地は、三ノ丸とよばれる西郭の北側の台地下で岩崎保育園跡である。

今回の調査内容

江戸時代の中頃(17世紀後半から18世紀)の建物跡を確認した。最も大きい場合、東西(桁行)21m、南北(梁間)9.4mの規模となる。建物は柱の配置、柱穴の規模・構造などから、東より3つのブロック(A・B・C)に分けられる。Aブロックは柱の基礎を大きめの石で固めた2間×2間の総柱の構造である。東、南辺(北辺も可能あり)に底等の施設を巡らしている。その堅固な造りから蔵の可能性が推定される。Bブロックは比較的大き目の柱穴で、やや変則的な柱配置の構造である。その変則的な柱配置から、さらに南北に区画が分けられる(B・B')。柱間の間隔から北側が居住スペース、南側が土間スペースとも考えられる。Cブロックは、柱間の間隔が広く、柱穴の掘込がたいへん深い。広い土間空間と考えられる。これらのことから、屋根付きの作業場であったと推定される。

その他、中世の堅穴状遺構が見つかっている。

まとめ

Aブロックを蔵と考えた場合、Bブロックはそれを管理する人の部屋とその通路、Cブロックは物品の搬入作業場と考えられる。当時この場所に、こうした施設を個人がもっていたとは、考えにくい。周辺に置かれていたとされる番所に付属する蔵と考えることができる。盛岡藩における番所の付属蔵の構造を考えるうえで重要である。

埋蔵文化財センターのこれからの催しもの

入場無料

埋蔵文化財写真展

日程：平成23年9月～10月 場所 江釣子SC(9月8日～19日)、さくらの百貨店(9月20日～10月4日)、生涯学習センター(10月5日～10月30日)

昨年度に埋蔵文化財センターが発掘調査した主な遺跡の写真展示を行います。

埋蔵文化財展

日程：平成24年1月6日(金)～10日(火) 場所 江釣子SC 催事場

北上市内の古代(奈良・平安時代)の土器や金属を生産していた遺跡について遺物や写真パネルを展示し、職員が解説します。

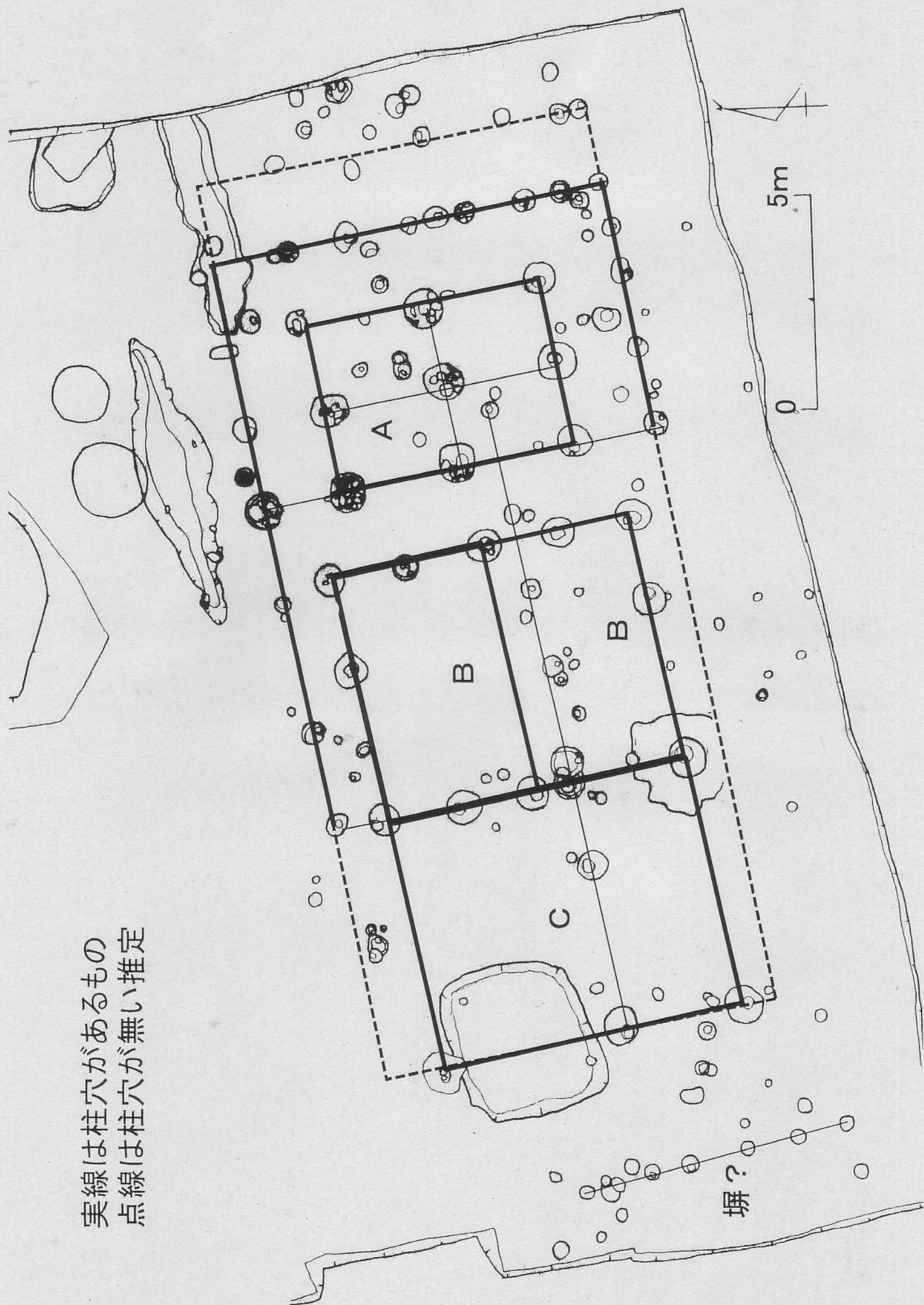
発掘調査報告会

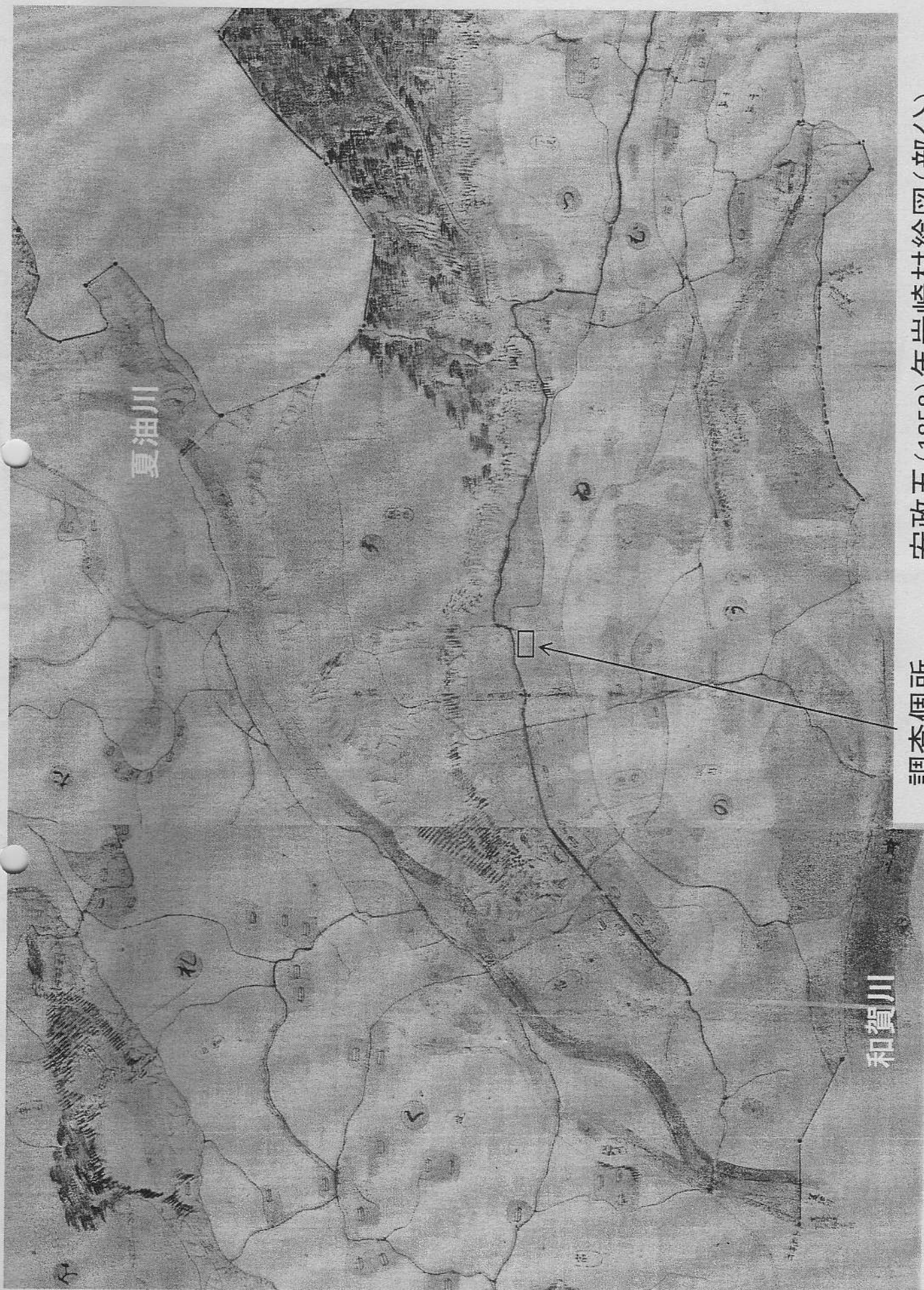
日程：平成24年1月8日(土) 午後1時～3時 場所 現代詩歌文学館講堂

平成23年度に調査した遺跡についてスライドなどで報告します。

また、埋蔵文化財展に合わせた講演会も予定しています。

実線は柱穴があるもの
点線は柱穴が無い推定





夏油川

和賀川

安政五(1858)年岩崎村絵図(部分)

調査箇所

和賀町教委1988年「和賀町和賀川南地区古絵図帳」より